# 令和５年度　第１回大潟コミュニティ・スクール委員会　議事録

| 開催日時　場所 | 進行・記録 | 出　席　者 |
|---|---|---|
| 令和５年６月７日（水） | 進行<br>黒田　　匠<br>記録<br>猪田　　謙 | 出席委員<br>・川名祐貴子　・池田　亜紀　・竹田　未貴<br>・佐藤　純子　・井部　孝一　・柳沢　恵子<br>・塚田　克俊　・中澤　和仁　・小玉　　裕<br>・上野　裕文　・大瀧　明美　・布施　　徹 |

提出版

Ⅰ　１３：４５～１４：１５　大潟町小学校授業参観
Ⅱ　１４：４０～１５：１０　大潟町中学校授業参観
Ⅲ　１５：３０～　第１回コミニュティスクール委員会（大潟町中学校　会議室）

議事内容

１　委員自己紹介

２　会長、副会長、事務局長選出及びあいさつ

・会長、副会長の選出
昨年度に引き続き、会長に上野裕文さん、副会長に仁田秀三さんが選出された。

・会長あいさつ
新任の小学校、中学校の校長先生方、ようこそ大潟町へ。すばらしい組織になることを期待している。
上越市のいじめ防止基本方針は令和４年度から策定に入り、令和６年に改訂予定。
＜改定の４つのポイント＞
①いじめ類似行為も含まれる。
②インターネットを通じたいじめの防止に取り組む。
③学校訪問カウンセラー、スクールカウンセラー、ソーシャルワーカーなど組織の拡充をする。
④警察と連携していじめ問題に対応していく。

３　議事（司会：上野会長）

（１）小学校から＜中澤校長＞

【令和５年度学校経営方針等】

・今年度創立 150 周年を迎える歴史と伝統のある大潟町小学校。１年生 52 名が入学し、全校で 390 名。先日行われた 150 周年記念運動会は前日に雨が降り、絶好のグラウンド状態で行われた。150 周年にちなんで、150 フィート走（約 46m）、150 キュビット走（約 69m）の徒競走を行った。スタートダッシュで何回かフライングがあるなど、子どもたちはやる気をもって取り組んでいた。

・「幸せな学校」という教育目標は元長谷川敬子校長の時から継続している。愛と人権をもって子どもたちに関わるように職員指導をした。
・家庭学習の手引きを発行して学力向上につなげていく。
・今年度は生活科、総合的な学習の時間の「どんど」を充実させ、地域とよりかかわっていく。
・5 月 31 日（水）、登下校中に地震やミサイルアラートが鳴った時の児童の避難行動について文書を発出した。基本は、自宅か学校までの距離が短い方に向かうということ。委員の皆様からもご承知いただきたい。
・創立 150 周年記念事業は 10 月 21 日（土）。午前に学習発表会、午後は記念式典を予定している。

質疑応答

＜井部＞
・小学校でもいじめはあるのか。
＜中澤＞
・重大事案はないが、嫌がらせなどのいじめはある。
＜仁田＞
・いじめについては、手を出す、はたくなどは続かないように。解決に向けて経過観察が大切。
＜中澤＞
・当校の「いじめ防止基本方針」にもあるが、いじめは未然防止が重要である。それでもいじめが起こってしまったら、早期発見、組織対応、早期対応、早期解決に取り組んでいる。いじめ事案に対しては、被害・カ外耳道はもちろん、周りの児童にも確認して事実を把握している。また、いじめの概要や指導内容については関係する保護者にも確実に連絡し、家庭からの協力も得ながら、続かないように家庭と連携しながら対応している。
＜井部＞
・子どもと親はいじめや不登校についてしっかりと対話をする必要がある。
＜上野＞
・コミュニケーションが大切。ボタンの掛け違いで大きな問題となる。
＜仁田＞
・現状、教室には入れないこどもなどがいるようだ。いろいろな子どもがいる。無理にではなく。一人一人を大切に。教職員の数が足りない。級外職員が 1 人増えたようではあるが、全職員がフル稼働しているように感じる。
＜中澤＞
・様々な子どもがいる。確かに救外職員も教室に入り、職員室・校長室が空になることもある。それでも、少しずつ学校に慣れてきている。これからも限られたメンバーではあるが、できる限りの支援していきたい。

（２）中学校から＜小玉校長＞

【令和５年度学校経営方針等】

学校運営経営計画については大きく３点。

・安全・安心が最優先

校舎の老朽化がひどい。武道館の非常階段やグラウンドの単管ネットの柱が朽ちている。

・現在だけではなく、未来を見据えた考え方

主体性を大切にしていく。失敗を恐れず、生徒主体で。先生は支援を重視し、生徒を主語にした活動を増やしていきたい。やらされていることをなくしていく。

・地域あっての中学校

避難訓練は生徒自分たちが避難するだけではなく、地域の人を避難させる側に。

学校行事は学習成果発表会である。そのため、多くの来校を望む。

・成人年齢までの時間が短くなっている。更に、自立や自律の育成が重要となる。

主体性とは、与えられたノルマをこなすのではなく、自主的に判断して取り組むこと。

目指す子ども像はあえて入れてない。「みんなで考えましょう」

授業を妨害することは、生徒の進路を妨害することに直結してくる。そのため、厳しく対応する。

・評価は子どもたちの姿であり、ごまかしがきかない。

・子どもたちは元気で、純真である。

・主な行事

5/26（金）がんばり遠足　9/3（日）体育祭　10/27（金）音楽祭

ぜひ見に来ていただき、評価してほしい。

質疑応答

＜塚田＞

部活動はどうなるのか。

＜小玉＞

大会参加の資格が変わった。学校単位ではなく、クラブチームでも出場できる。

これからの課題としては、補助金、引率職員、学校が把握していない大会などどうするか。

これから先、部活動がなくなるかもしれない。子どもたちがやりたいことをつぶさないようにしたい。

＜井部＞

部活動がなくなるのはさみしい。

＜小玉＞

これからは、公教育ではなく、任意団体主体の形になりそう。

＜井部＞

指導者、保険、賃金など課題がたくさんある。大潟町はジムリーナがあるが、それ以外は今後どうなるのか。体操は、板倉町まで送迎をしている。高校生も活躍をしている。

＜上野＞

新聞にあったが、県で方針を示すようだ。しかし、その決まりを守る、守らないで練習量など差別的になる。受け皿がそろっていない。教師や保護者で現実に合った合意形成が必要。

＜上野＞
　ＰＴＡ組織を変えるとのことであったが、どのようになったか。
＜小玉＞
　大潟区の団体の組織の中でＰＴＡ役員の割り当てがあるが、今後考えていく。
＜池田＞
　１年の役員で学年委員に立候補したため、今ここにいる。
＜上野＞
　市Ｐ連の組織のつながりがある。いろいろな組織の会合は保護者も仕事が終わってからとなる。いろいろと実情を出して整理していく必要がある。
＜井部＞
　ＰＴＡ組織はなくなるのか。
＜小玉＞
　学校は生徒のために、保護者が協力して活動するという本質は変わらない。手探り状態である。学校行事との連携もある。
＜上野＞
　子どもたちのためにしてもらえるという気持ちは同じ。どのような修正や改善が必要か考えていこう。
＜池田＞
　老朽化といえば体育館と武道場がつながるすのこも換えてほしい。体育館の雨漏りもある。
＜小玉＞
　そのほか、特別教室にエアコンがない。どうにかしていただければありがたい。

（３）保・小・中連携＜猪田＞
・今年度も「大潟区教育研究会」として、学力向上部、特別支援教育部、人権教育、同和教育部、生徒指導部、生活・健康づくり部、保・小連携部の６つの専門部に分かれて活動を進める。
・互いの授業を参観するなど、児童生徒の実態把握に努める。

質疑応答
＜上野＞
　先生方の連携はしやすいが、子ども同士の連携はどうなっているか。特にコロナ禍になってから互いの交流がしにくくなったのではないか。
　例えば、保育園と小学校の交流会、小学校と中学校の交流として部活動見学など。
＜猪田＞
　保育園年長児と小学校１年生の交流会は実施している。また、中学校の先生から来ていただき、授業をしてもらう機会もある。
＜小玉＞
　今年度は、生徒指導部でいじめゼロスクール集会を計画している。

＜仁田＞
子どもたちのゲームの時間やメディアと関わる時間については、ぜひ保護者に啓発してほしい。
＜猪田＞
生活・健康づくり部で行っている「元気アップ大潟」では、実は保育園児の睡眠時間が一番達成率が低い。
＜大瀧＞
メディアについては、保健教育講座として、区の保健師さんから０～１歳児の保護者向けで計画している。
保護者に対しては、子どもとどうやって関わり、どうやって育てるかからが大切である。

（４）その他＜黒田＞
・事務連絡
・部活動は中学校だけの問題ではなく、何かあるたびに地域でも話題にしてほしい。先日のかっぱ祭りでは吹奏楽部が演奏を披露し好評をいただいたが、週休日の活動が年間 20 日に制限されたり、部活動を理由とした校区外通学がなくなる可能性もあったりで、地域の取組に影響を与えかねないことを理解していただきたい。

４　閉会のあいさつ＜仁田副会長＞
・先日、カンヌ国際映画祭で脚本賞を受賞した「怪物」。受賞した際のインタビューで、脚本家の坂元裕二氏はこうおっしゃっていた。
「これまで私は『怪物』と出会ったことがある。運転中に前の車が止まっていた。あまりにも長い時間だったのでクラクションを鳴らした。すると、その前の車の前に障がい者がいたことが分かった。自分の中に『怪物』がいたのである。」
イライラしている子どもの行動について、裏側を考える必要がある。子どもの言動には理由があるものだ。何かあったらＣＳ委員に相談してほしい。応援団になる。